

GUNMA

地域づくり情報誌

ひゅうまにあ通信

令和6年度テーマ「自治」

「地域のじぶんたちに必要なことを地域のじぶんたちが
主体となって考えて取り組むこと」



VOL.84

2025 March

CONTENTS

ぐんま地域づくりAWARD		2P
地域づくり講演会		4P
地域づくりネットワーク		8P
地域づくり実践講座		10P
市町村担当職員交流会・お知らせ		12P

令和6年度

ぐんま地域づくり AWARD

当協議会では、県内で活発に地域づくり・ひとづくり活動に取り組んでいる団体・企業・商店街・学校等を顕彰しています。

今年度は19団体から応募があり、ぐんま地域づくりAWARD大賞に「三方良しの会」。ぐんま地域づくりAWARD奨励賞に「NPO法人ふるさと再生ネットワーク」「とねぬまた本気ミュージカル実行委員会」の3団体が受賞されました。



Commentary - 講評 -

読売新聞東京本社前橋支局 金杉支局長

過去最も多い19の団体から応募があり、県内各地の団体が地域を盛り上げるため活動していることが伺えます。審査では、その地域にどれだけ密着しているかというところで考えました。

そうした観点から、非常に、地元に対する温かい愛情が感じられるような活動されていると思い、「三方良し」の会さんが大賞にふさわしいのではないかと選ばせていただきました。

三方良しの精神というのは非常に素晴らしいなと思いました。これからも続けて、行かれて欲しいなと思っております。



NHK前橋放送局 國廣局長

審査の時期がNHKの異動と重なってしまいましたが、審査を担当した前局長からいずれの活動も甲乙つけがたい素晴らしい活動ばかりだったと聞きました。

奨励賞を受賞された「NPO法人ふるさと再生ネットワーク」さんは、バラエティに富んだイベント企画を通じて深刻な課題に対して効果的な活動をされていました。また、「とねぬまた本気ミュージカル実行委員会」さんは、楽しみながら活動に励み、幅広い地域や世代の交流の場を作り上げていました。

いずれも魅力的な活動で、今後の一層の活躍を期待しています。

Gunma Regional Development AWARD

受賞団体の声

ぐんま地域づくりAWARD大賞

大間々町は、近江商人の「売り手よし、買い手よし、世間よし」の精神が200年以上前から根付いてきた町です。

その精神を次の世代に引き継ぐために2010年に「三方よし」の会を作りました。

審査会では他団体のプレゼンも聞きましたが、どの会の活動も素晴らしいと思いました。その中で私たちが大賞を受賞したことは、今後の活動の励みとなり、これからも精進していききたいと思います。

そして、「三方よし」の活動が「四方八方みんなよし」と形が広がっていければいいと思っています。

私たちも頑張ってまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

「三方よし」の会 (みどり市)



ぐんま地域づくりAWARD奨励賞

ふるさと再生ネットワーク (高崎市)



吉見町奥平の申田川では、その昔氷のスケートや魚釣り、夏は水泳をしていました。その思い出の場所が、どうしようもないほど荒れていて、何とか再生しようと活動を始めました。最初はホテルを飛ばそうと活動していましたが飛びませんでした。遊休農地を借用できたので場所を移動し、竹林だったので竹を利用しようと県の支援で炭竈を作り炭焼き体験をしました。筍が取れるようになり筍掘体験を開催。また、田植え体験、稲刈り体験、竹細工教室と多くのイベントを開催し、子ども達的环境学習・職業教育になってます。

「ロマンスが生まれるシリーズ」で、お見合いにも力を入れ92組のカップルが成立。入籍の報告もあり喜んでいきます。ぜひ皆様にもご協力、お力添えいただければと思っています。よろしくお願いいたします。

とねぬまた 本気ミュージカル実行委員会 (沼田市)

私たちは市民ミュージカル団体で、運営スタッフは20～60代まで幅広い世代のメンバーで運営をしています。2022年2月のコロナ禍で立ち上がりました。皆さんにご尽力いただき、2023年3月と12月の2回、公演を成功することができました。

活動の中で、子供たちは学校を超えたつながり、大人たちは、生きがいを身近に感じていただけたと思っています。「本気」で一生懸命やること、やった過程や気持ちが大事だと思っています。

応援のおかげで、ご評価いただき、大変すばらしい賞をいただいたと思っています。

これから、2026年3月に第3回の公演を予定していますので、ぜひ皆様のご支援ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



地域づくり講演会

COMMUNITY DEVELOPMENT LECTURE

地域社会の主体と期待される次世代への教育は、いま現在どうなっているのか。地域社会は学校・子どもたちにどう関わっていくことができるのか。「自分事／当事者＝Be The Player」をビジョンに掲げている加賀市の島谷教育長から、「地域づくり」にもつながる考え方や姿勢についてお話いただきました。

また、県内で活動する高校生3名と島谷教育長とのトークセッション。コーディネーターは、本協議会の沼田会長が務めました。



▼地域づくり講演会

加賀市教育長 島谷千春氏

▼トークセッション

コーディネーター

・群馬県地域づくり協議会長 沼田翔二郎氏

パネリスト

・加賀市教育長 島谷千春氏

・ぐんま国際アカデミー高等部2年生

・藤岡北高等学校3年生



Monday

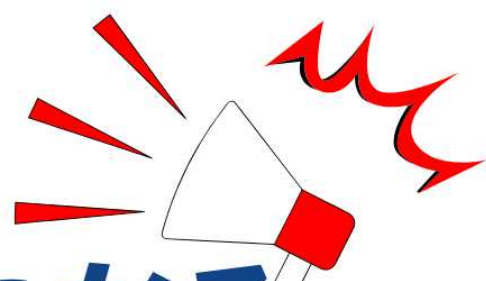
August 2025



NETSUGEN

GUNMA PREF. FOREST CAMP

time of the lecture

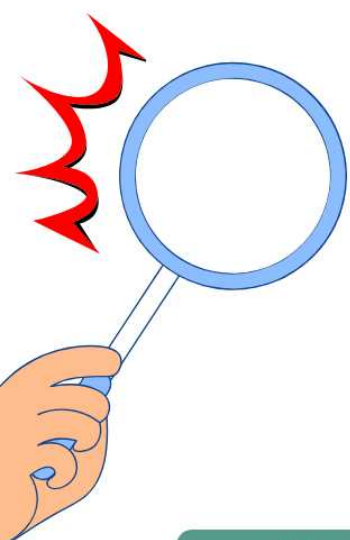


自分事/当事者になる ってどういうこと？

～加賀市の学びの改革から地域づくりを考える～

教育スローガン「自分事／当事者＝Be The Player」を軸に、
教育は地域づくりに密接に関係してくることをお話いただきました。

4つのプロジェクト

- 
- ① 学びを変える（授業改革）
 - ② 誰一人取り残さない（不登校支援）
 - ③ 未来は自分で創る（STEAM教育）
 - ④ 地域と一緒に



石川県加賀市／島谷教育長

学びを変える

- 子どもが「主役」の授業。子どもたちに学びを「委ねる」授業。
- 人生100年時代。「一生涯学び続ける」ために、自分で学び、人を頼る力を育くむ。

未来は自分で創る

- 知る（探究）とつくる（創造）のサイクルを生み出す、分野横断的な学び。
- テクノロジーの進化が「自分ごと」になる感覚。小さな世界でも変えた、変えられるかと思う経験を。

誰一人取り残さない

- 全員参加の授業。
- 教室には多くの子どもがいる。枠にはめずに、それぞれが活躍できる「環境」が必要。

地域と一緒に

- 住んでいる人たちが「PLAYER」
- みんなが見たいビジョンがあるか「やらされ感」のない世界をどれだけつくれるか。

「PLAYER」として動く大人たちがいれば、
子どもたちもそれに追いついてきてくれる。

POINT



"群馬県" 高校生の活動発表！

COMMUNITY DEVELOPMENT ACTIVITIES CHALLENGES

登壇してくれた高校生たちが、どのような活動をしているのか概要をお話いただきました。

ぐんま国際アカデミー高等部

角田 真優 さん

<https://www.gka.ed.jp/>



活動内容

皆さん、伝統野菜を幾つご存じですか。農林水産省が進めている「地理的表示(GI)保護制度」という、地域の知的財産を保護する制度がありますが、群馬県は1つも登録されていません。

中3の体験授業で、農家・関東農政局・JA等に行ったとき、伝統野菜を知ってもらえる機会がないことを知りました。どうしたら多くの人に知ってもらえるかを考え「上毛かるた」を思い出し、「野菜かるた」を作成。「かるた大会」等を開催して、多くの人に知ってもらえることができました。クラウドファンディングなども行い、群馬県内に配布する予定です。

この活動がきっかけで、多くの地域の方々と関わることができ、農家さんから「ありがとう」と感謝の言葉をもらえました。群馬の一員として、日本、世界、地球のコミュニティの一員として、よりよい社会を作っていけるかを考えるきっかけになった活動だと思っています。



主体的・協働的な公園づくり

藤岡北高等学校 / ガーデニング部

塚本 叶夢 さん
嶋崎 千恵 さん

<https://fujikita-hs.gsn.ed.jp/>



活動内容

ガーデニング部の活動として、「誰もが利用できる公園」を目指して、公園調査・討論・施策を地域連携活動として行っています。また、デザインコンクール等への参加もしており、昨年度は、学校農業クラブ全国大会に出場しました。

昨年までは、藤岡市都市公園の樹木調査や車椅子を用いたバリアフリー調査などを行い、今年度は、主体的・協働的な公園づくりを行うため、藤岡市公園づくり協議会を立ち上げました。市役所にて観光課や都市施設課の方々と桜山公園や都市公園のイベントについて、調査報告、管理状況などを話し合いました。その他、令和3年から竹灯籠製作活動を開始して、現在では竹伐採ワークショップイベント等への参加を行っています。公園調査や竹灯籠製作を通して、さらに地域連携を深め、よりよい藤岡市にしていく活動を目指しています。



ぐんま国際アカデミー高等部・藤岡北高等学校

石川県加賀市

群馬県地域づくり協議会

高校生 × 島谷教育長 × 沼田会長

沼田会長：高校生3人は、実社会での体験でどう感じましたか。また活動で、どう変化がありましたか。

角田さん：かるた大会を開催したとき、農家さんからお礼を言われて、当事者の方に認められて、実際に社会とつながりが持てたという印象がすごくあり、今でも活動のモチベーションになっています。

塚本さん：中学までは、地域と全然関わらずに過ごしました。部活動の先生、竹灯籠づくりで出会った松田さん、同級生たちがいなかったら活動をしてなかったと思うし、公園や竹灯籠の現状も知ることも調べることもなかったです。

沼田会長：実社会との接点を持って成長をしたのが、わかったと思います。

島谷さん：自力では叶わなかったことが、人と協力してできるようになる経験を実社会で体験できるのは、学びのモチベーションになります。そして地域や民間企業、実社会にアクセスができる仕組みづくりが、すごく大事だと改めて思いました。

沼田会長：島谷教育長は、取り組みの

中で地域の反応や印象的だったことはありましたか。

島谷さん：都市部と比べて学校と人の距離が近いです。子供たちに尽くせる思いが強く、双方にとってWin-Winな関係性をどう作るのかすごく大事だと思います。

沼田会長：実社会に開いていく学校とは、どんな存在になりますか。

島谷さん：教員の役割も変わり、子供たちの学びに伴走できるかどうかが大事だと思っています。子供が減っていく地域では重要性が増して、地域づくりが拠点になるのは間違いないと思います。地域を学校拠点として作り上げていけるのか。

沼田会長：高校生にとって学校はどういう存在？

角田さん：学び方を教える場。知識だけではなく問題に直面したときどう解決したらいいかプロセスを教えて欲しい。どう答えを見つけるのか。授業での問題解決能力が、実社会に出たときにも生きてくると思っています。

塚本さん：活動などを通して、地域の人と関わって大きく変わる場所。

沼田会長：3人が活動してきた地域社会裏側には、地域づくりを日常で担っている方々がいて、そう作ったのは皆さんだと思います。学校や地域社会は地続きで、改めて開かれたものにしていくと、加賀市で先行的に取り組んでくださってるのかなと思いました。

沼田会長：感想やこれからについて。

角田さん：きっかけや動機は小さくてもよくて、どれだけ大きくできるかが周りの環境に掛かっています。それを皆さんが作ってくれたら、本当に素晴らしい環境になると思います。

塚本さん：今までのことを続いて行けるよう。自分も途切れさせずに地域と関わっていかれたらと思います。

嶋崎さん：活動を通して、自分たちでできることと大人たちにならできることを補い合っている地域づくりにしていくことが大事だと感じました。

島谷さん：地域って3人のお話にあったようにあの人がいたから、がんばって言うてくれたから、小さなつながりの積み重ねだと思います。今までの価値観だけで判断しないで、世界は広いと多様性を受け入れてほしいです。

参加者からの声（一部抜粋）

- ・ 加賀市が自律した学び手が育つような環境づくりに努めていることがよく分かりました。
- ・ 持続していくことが大変で難しい。これはどの団体も今後の教育も課題である。
- ・ 自分事として主体的に取り組むことの大切さ。誰もが主役になれる現場。教育だけではなく市民活動団体や町内会の活動でも共通したものと感じた。
- ・ 地域づくりを考えた時にいかに子供や若者が大切なのかをつくづく思いました。

地域づくりネットワーク

「参画」と「協力」の仕組みをつくることを通じた 地域づくりの実践と歩みと

平成23年からNPO法人DNAの代表理事として「群馬の10代に、しなやかな学びを。」をミッションに掲げ、学校や民間企業と協働した教育事業を実践されてきたNPO法人DNA理事代表（群馬県地域づくり協議会会長）の沼田翔二郎さんに、これまでに群馬県で実践してきた活動についてお話いただきました。



NPO法人DNA 代表理事 沼田翔二郎氏

将来の不安

意欲が
湧かない

誰かに
聞いてほしい

マイナスの
の
高校時期
面

人間関係で
困っている

過去のトラウマ
がある

不安や焦りを
感じる



- 地域社会は地域や行政の「誰か」がつくってくれると思っていましたが、このまちを創るのは貴方で私なんだと気づき「担う人を育てる」ことが大切だと学びました。
- 現代社会で個人化は避けられず「自律」「協働」とプラス面がある一方、「自己中心」「不安」「私事化」のマイナス面があり、このマイナス面を減らすには、“意図的”に人々のつながりや交流、対話を促す仕組みづくりが必要。
- 仕組みづくりの「場」は、学校がベストだと思いNPO法人DNAの代表理事になりました。
- 私が大学時代に地域社会とつながり、その出会いの中で成長できた体験はとてもラッキーなこと。私の体験を誰もが経験できるような仕組みづくりが必要だと考えました。

学校に、社会を届ける

自分のことを応援してくれる人は、この地域社会に存在する。

悩み・不安など

trouble



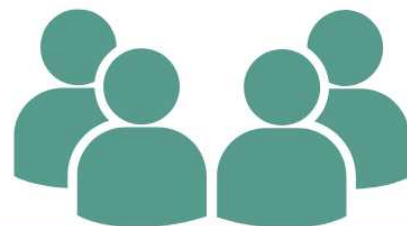
友達や先生、家族など
身近な人に相談できないこと

1

大人との関わり

Interaction with adults

親でも先生でもない、地元に住んで
いる大人たちにボランティア教
師として入ってもらい、生徒達の
悩みや不安の相談役に。

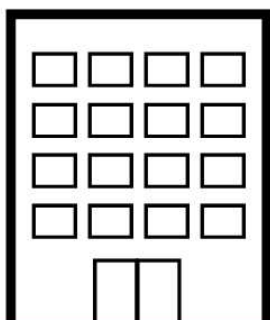


2

自分と地域社会はつながっていることを 意識できるカリキュラム

企業との関わり

Involvement with companies



卒業後の進路につ
いて考える時期。社会
に出てからの疑問や
不安について、実際
の企業とお話の機会
をつくりました。

3

4

実践

Practice

思いついたこと考
えたことを、実際に自
分でやってみる。

▼
経験や活動過程の人
とのつながりなど、
プラス面がUP！



取組を行う上で意識してきたこと

- 「自分自身が望む未来」と「なりゆきの未来」の2つがあり、どちらに進むかは自分の行動次第。
- 望む未来に近づけていく経験、自分で歩いて創る経験が大事。
- 自分だけでできないことは、周りの力を借りて、マイペースで近づいていこうと伝えてきました。

群馬県地域づくり 協議会への思い

3年間、色々な人に参画してもらえるには、どうしたらよいか考
えてやってきました。行政と民間の皆さんが交わる場で「汽水域」
だと思っています。「汽水域」では、たくさんのものが豊に生まれて
いきます。そんな「汽水域」であり続けてもらいたい。今後も、肩
書きや立場を超えて、名前呼び合う関係であって欲しい。引き続
き、「参画」と「協力」をお願いします。

三方良しのまちづくり

「三方良し」の心意気
今も色濃く残すみどり市



実践講座

▼ 行程

1. 創生落語
2. まちなか散策
3. 意見交換会

案内：NPO法人ながめ黒子の会
案内：「三方良し」の会
in 複合施設Haji-Maru

創生落語



合併10周年記念事業で、各地域の偉人や物語を題材とした創生落語の台本を作成。落語家に演じていただいたのを契機に、市内の小学校8校で授業を行い、12月には「ながめ余興場」で落語会を行っています。

まちなか散策

みどり市内を御案内いただきました。この他にも現在リノベーションを進めている場所や魅力を秘めている施設などを御案内いただきました。



旧小林眼科

三方良しの会が引き継いだ歴史ある元眼科医院の建物。



醤油工場

創生落語の題材になった岡直三郎商店さんにて「醤油の仕込蔵」内を見学しました。



蔵人新宇

歴史ある蔵を残しリノベーションした蔵群。カフェや宿泊施設等もあります。



みどり市観光協会

約100年前に建築された旧酒造店舗(旧奥村酒造)の建物。柱や間仕切り、石積みの壁は当時のまま。



三方良しの井戸

岡直三郎商店の敷地内にある井戸。今も地域の人たちが利用しています。

複合施設Haji-Maru



片山 翔平氏
株式会社いろという



[住所] みどり市大間々町大間々1389-6
[instagram] @hajimaru_iro.to.iro_gram

株式会社いろというは、会社を始めて1年。「暮らしを楽しみながら、変えていく」をコンセプトに、アンカンミンカンの富所さんと役割を分けて行っています。

事業も人口も減っていく中、残っている歴史もこのままでは消失してしまいます。活性化には”選択”をする必要があります、ここでも”多様性”が求められています。

複合施設Haji-Maruは、暮らしを彩る複合施設として、働き方・暮らし方・過ごし方の多様性を高める場所で、30年間空き家だった築100年の建物を自社でリスクをとって、地域の仲間たちと一緒にリノベーションしました。

まず第1弾事業としては「曜日貸しシェア型飲食店」をオープンし、チャレンジしたい若者などに貸し出します。今後はシェアハウス・ゲストハウスなどの事業も手がけたいと考えています。

関わる全ての方を笑顔にできるように、常に、変化していくプロセスを多くの方と楽しみながら、事業活動を続けていきます。

みどり市観光課 ニノ宮さん

リノベーションまちづくりとは、まちの財産である遊休不動産や活用されていない公共空間を使って、民間の力で都市・地域経営課題を解決する手法です。

このような手法ができた背景として、ひとつめに人口減少、ふたつめに経営戦略のアプローチの変化として、民間のプレイヤーの意見も吸い上げた中で、戦略を創っていく必要性がでてきたことがあげられます。また、令和4年度大間々町が過疎地域として指定されました。



みどり市都市計画課 高瀬さん



リノベーションまちづくりで、まちでは新たな兆しが出てきました。ゆくゆくはエリア価値の向上につなげていければと考えています。

行政として、リノベーションまちづくりとウォーカブルなまちづくりを推進することで、民間を支援していければと計画策定をしています。策定段階から官民連携で民間の意見・声を聞きながら作っています。みどり市のまちづくりを民間と手を取り合って出来ればと思っています。

[みどり市ホームページ] <https://www.city.midori.gunma.jp/>

参加者 からの声

- 三方良しの精神を随所に感じました。会の方々がスーパースターなので、次世代育成も楽しみにしております。
- 空き店舗改修についての過程が見ることができ大変良かった。
- 街づくりの初期の段階の難しさが理解できました。なるべく協力出来る事から、自分も参加したいと思います。
- 活動現地の講座を開催することの大切さを痛感しました次第...年度に一回は、五感で感じ取れる講座を開催してほしい！

市町村担当職員交流会

交流会の目的

- ①各市町村の地域づくり担当者同士の横のつながりをつくること
- ②業務を進める上で、日頃から感じている課題や悩み、苦労している点などを共有すること

富岡市地域づくり課さんに御協力いただき世界遺産の「富岡製糸場」で開催しました。

4班に分けて、自己紹介を含むアイスブレイク後、取組を発表いただき、各グループで感想や各市町村の抱えている課題や悩みを共有しました。

①妙義エリアでの取組報告

- ・珈琲焙煎所「月とゆふづつ」西尾さん

②「地域づくりセンター」を核にした地域課題の解決に向けた取組について

- ・富岡市地域づくり課



参加者からの声

- ・他地域の状況を共有して議論できたのは良かった。
- ・今後もこういう場を設けて欲しい。
- ・他市町村の抱える課題や改善の取り組みを伺えて大変参考になった。
- ・担当者同士が顔見知りになれたことで、今後の連携もスムーズにできれば。

お知らせ

【5月7日締切】令和7年度 ぐんま地域づくりAWARDレポート募集

本協議会では、県内で活発に地域づくり・ひとづくり活動に取り組んでいる団体・企業・商店街・学校等を顕彰しています。ぜひ皆さんの活動に対する想いや内容をレポートにして、ご応募ください！！

【賞金】

- ・ぐんま地域づくりAWARD大賞 8万円
- ・ぐんま地域づくりAWARD奨励賞 3万円

【共催】

- ・読売新聞東京本社前橋支局
- ・NHK前橋放送局

詳しくは、
本協議会ホームページにて！！



ぐんま地域づくりAWARD 2025レポート募集

大賞：8万円
奨励賞：3万円

R6大賞：三方良しの会
R6奨励賞：ふるさと再生ネットワーク
R6奨励賞：とねぬま本気ミュージカル実行委員会

応募締切
5/7(水)

主催
群馬県地域づくり協議会

【共催】読売新聞東京本社前橋支局 NHK前橋放送局
【後援】群馬県 群馬県市長会 群馬県町村会

群馬県地域づくり協議会発行（群馬県地域創生部地域創生課内）
〒371- 8570 群馬県前橋市大手町1-1-1
TEL：027-226-2352（直通）
URL：https://www.pref.gunma.jp/site/chidukyo/

協議会ホームページ
QRコード

群馬県地域づくり協議会

検索